

* : *

1 ポートエッセイ 「成長戦略の本格化へ、正念場の年」

～日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 篠田 昭～

* : *

新年明けましておめでとうございます。昨年は久しぶりに景気の明るさが地方でも感じられ、新年会も熱気と勢いがあったように思う。この1年は自公政権の下、港湾の振興・整備にも力が入られる中、皆さんから各地域で大変なご尽力をいただいた。今年も港から地域の元気を引き出すよう、皆さんと共に頑張っていきますので、よろしくお願ひします。

明るい年明けとなった2014年だが、4月には消費税増税が控えている。景気の腰折れがないよう、政府は5.5兆円規模の景気対策を打ち出したが、4月から6月の景気減速は避けられない。7月から9月でどれだけ立ち直るかがポイントとの見方が一般的だ。

やはり勝負は安倍政権の3本目の矢、「成長戦略」にかかっている。規制緩和の象徴といえる「国家戦略特区」はやや小粒な感は否めないが、これからどれだけ巻き返せるか、3月の正式決定と地域指定を注視したい。特に地域指定が3大都市圏に止まらず、地方も選定されるかどうか大きなポイントだと思う。

2020年の東京五輪開催決定は誠に喜ばしいが、新たな東京一極集中への懸念も高まっている。成熟した五輪のモデルとなったロンドン大会では、その前の北京五輪が終わった後すぐに、イギリス全土、12の都市・地域で「文化プログラム」が実施された。「若者に夢を与える」とのオリンピック憲章に基づいた実践だったが、五輪でイギリス全土を盛り上げる工夫でもあった。

東京五輪でも文科省などが文化プログラムを計画中だ。リオデジャネイロ五輪は2016年開催なので、すぐに準備をする必要がある。文化プログラムを含め、ぜひ日本全体が盛り上がる中で東京五輪開催を迎えたい。

そのためには成長戦略と、年末に成立した国土強靱化基本法の活用が欠かせない。これらの時代背景を踏まえて、機敏かつ的確に反応していきたいので、皆さんから積極的な提言・実践をお願いして新年のあいさつとします。元気な日本へ頑張ろう。

* : *

2 トピック

* : *

● 「湊まち新潟歴史ウォーク2013」全7回が終了しました

(北陸地方整備局 新潟港湾・空港整備事務所)

このウォークは、湊町新潟の歴史を学ぶことを通じて、多くの市民に2019年に開港150周年を迎える新潟港の未来像について考えていただくことを目的に、平成20年から始めて今年で6年目となります。

公募抽選で選ばれた40名が、5月から10月までの毎月1回、新潟港の歴史にゆかりのある地を歩きました。

11月の最終回は、朱鷺メッセ展望室において、「開港150年の湊まち新潟に向けて」と題してウォーク参加者による意見交換会が行なわれ、参加者からは「若い世代にもっと新潟の歴史を知ってもらいたい。生まれ育った新潟のルーツを知ることが未来に繋がる。」、「大型浚渫兼油回収船『白山』や通船川など、普段見ることのできない施設を見学し、そこにかかわる人々の努力によって新潟港が維持されていることを知ることができ良かった。」、「開港150周年に向け、単にお祭り騒ぎで終わることなく、多くの市民が活動に参加できる仕組みが欲しい。」、などの発言がありました。最後に、出された意見や提案を、これからの湊まちづくりに活かしていくことを確認しました。

ウォークの運営は、NPO法人である「新潟みなとクラブ」「にいがた湊あねさま倶楽部」「新潟水辺の会」と一般市民、並びに「新潟港湾・空港整備事務所」が連携し、実行委員会形式で行っており、平成26年度も「湊まち新潟歴史ウォーク2014」として開催する予定です。



「みなと・さがん」散策の様子



意見交換会の様子

※「みなと・さがん」とは、萬代橋より下流の信濃川左岸に整備された緑地帯の名称

● 「第10回 美しい中部のみなとまちづくりフォーラム」が名古屋で開催されました
(中部地方整備局 港湾空港部 港湾計画課)

平成25年11月8日(金)に、「第10回 美しい中部のみなとまちづくりフォーラム」(主催:美しい中部のみなとまちづくりフォーラム実行委員会(事務局:都市環境ゼミナール)、後援:中部地方整備局、名古屋市、名古屋港管理組合等)が愛知県名古屋市にて開催されました。

本フォーラムは、「みなと」を核として地域振興を図る「みなとまちづくり」や、人・モノの交流活性化、観光振興のための方策等について、講演や参加者間での議論を行い、みなとまちづくりを応援することを目的として、毎年中部地方整備局管内の港湾で開催されています。

当日は、伊藤達雄都市環境ゼミナール会長(三重大学名誉教授)の開会挨拶のあと、三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)政策研究事業本部 名古屋本部 加藤義人副本部長より「名古屋のさらなる魅力・活力向上に向けてーリニア時代の地域づくりを考えるー」、有限会社オズの江崎貴久代表取締役より「おもてなしを通して地域の魅力発見!」と題した基調講演が行われ、さらに、中川運河の活性化に携わっている一般社団法人 中川運河チャンネルアートの松林正之理事長より「中川運河とチャンネルアート その活動と課題」と題した基調報告が行われました。パネルディスカッションでは、伊藤会長がコーディネーターとなり、基調講演・基調報告者の他に、特定非営利活動法人伊勢湾フォーラムの村上廣理事長、港まちづくり協議会の古橋敬一事務局次長、OS☆Uの清里千聖氏、高橋萌氏が参加して、名古屋港の活性化についての議論が行われました。議論では「横浜、神戸に負けないようなアーバンリゾートの設置」「従来の役割に固執しない、行政と市民の一体化」「名古屋港への交通アクセスの強化」等の意見が出されました。

当日は名古屋市民を中心に200名以上の参加があり、名古屋港の活性化における方向性や課題等を共有し、更なるにぎわいの創出に向けて一歩前進致しました。



開会挨拶を行う伊藤先生



パネルディスカッションの状況

●みなとオアシス防災訓練 ～小松島みなとオアシス～

(四国地方整備局 小松島港湾・空港整備事務所)

平成25年11月17日(日)、第4回目となる「みなとオアシス防災訓練」を“小松島みなとオアシス”(小松島みなと交流センター kocolo内)にて行いました。

実施主体は、小松島みなとまちづくり協議会で、関係する機関、地域住民、地元高校生など約50名が参加し、①ロープワーク訓練、②被害想定等の情報提供、③災害図上訓練が行われました。南海トラフにおけるM8以上の巨大地震が、今後30年以内に60～70%の確率で発生すると言われており、具体的な被害想定も徳島県より公表されている中、参加した方々は危機感を持って各訓練を行っており、“みなとオアシス”を通じて周辺地域の住民や学生など世代の違う人達が防災関係で交流するいい機会になったのではないのでしょうか。

なお、訓練の詳細状況は、「あわみなと通信 2013特別号」

(http://www.pa.skr.mlit.go.jp/komatsushima/office_c.html)より確認いただけます。

※“みなとオアシス”とは、みなとを核とした地域の活性化を促進するために、海浜・旅客ターミナル・広場など人々の賑わいや交流をつくりだすみなとの施設を国が認定しているもので“小松島みなとオアシス”は平成16年度に認定されています。



ロープワーク訓練状況



災害図上訓練状況

●『浜田港利用者懇談会』を開催しました ～産業の国際競争力強化に向けて～
(中国地方整備局 境港湾・空港整備事務所)

中国地方国際物流戦略チームの取組の一つとして、港湾利用者の方々の物流全般に関するニーズを把握するために、利用者懇談会を実施しました。中国地方国際物流戦略チームは、平成18年8月に中国地方整備局、中国運輸局及び中国経済連合会が事務局になり設置いたしました。

平成18年度より、中国管内において、のべ24箇所で行った利用者懇談会を開催しており、浜田港では平成18年11月と平成20年10月に利用者懇談会を開催しました。この度、平成25年11月26日に第3回目となる利用者懇談会を開催し、地元企業等8社、有識者等の方々にご参加頂き、海上輸送の円滑化、コンテナ航路の利便性の向上、大型輸送船に対応可能な港湾機能の確保などの浜田港の更なる利活用について活発な議論がなされました。



